

# よりよい性教育授業のための語り合い活動を取り入れた開発教材の

## 有効性の検討

### —学習者の授業評価および発話分析に着目して—

石井 里佳(群馬大学)

#### 1. はじめに

我が国の保健授業における性教育には、教師の指導への苦手意識や生徒の性に対する抵抗感など様々な課題があり、保健授業の性教育においても主体的・対話的な学びを実施する必要がある。

そこで本研究では、学生の既習内容やニーズ、対話的学びを行うための実態等から、学習者からみたよりよい性教育授業の特徴を考察し、それらを踏まえた開発教材を用いた授業の有効性を検討する。

#### 2. 研究方法

質問紙調査は、青少年の性行動(日本性教育協会)等の質問項目からなる質問紙(13項目)を作成し、全7大学の学生462名(男性265名、女子197名)に対して、2016年11月～2017年7月に実施した。

開発教材を用いた授業実践および評価は、A高校(1授業)、B高校(4授業)の第2学年男子55名、女子125名に2017年7月に実施した。調査項目は、白石龍・白石大(2013)を参考に作成した授業評価票、授業の感想、生徒と教師の学習活動中の発話である。

データはIBM SPSS Statistics24、自由記述は文章分析ソフトKH Coder、発話は高垣・中島(2004)の質的分析枠組を用いて分析した。

#### 3. 結果・考察

##### 1) 質問紙調査

よりよい性教育授業の特徴を考察できた(表1)。

表1 よりよい性教育授業の特徴

学習内容・教材	授業形態	指導の工夫
「性の心理・倫理的側面」を補完している	授業のねらいや学習者の実態に応じて、男女別授業や同性教師からの学習指導などの工夫をしている	生々しいと捉えられる視聴覚表現を避け、提示する場合は事前に説明している
学習者が自身と関係が深いと捉えられる	外部講師や養護教諭との連携授業や、学年や全体講話を組み合わせている	性についての対話的な学習を行う際は、やり方やメリットなどを説明している

##### 2) 開発教材を用いた授業実践および評価

質問紙調査の結果および学習指導要領等からの指導の留意点やピアエデュケーションの視点を踏まえ、開発教材「CROSS OPINION」を開発した。

###### (1) 授業評価

対話を通じた学びを肯定的・主体的に行っていたことや、肯定的に評価していたことが推察された。

###### (2) 授業の感想

品詞分析から、「多角的に見ることでの新しい発見」「相手を尊重する大切さ」など5つのまとめりや、今後の意思決定・行動選択に対する実践意欲に関する記述が多くみられた。

###### (3) 発話分析

ボイスレコーダーを用いて記録した全4781の発話の内3992がカテゴリに分類できた。

全ての授業・班で相互作用のある語り合いになっていたと評価できた。また、発話の多い班・生徒は相互作用があったことを示す操作的トランザクションも多いこと、発話の量や質に性差があること、さらに、教師の発話介入が語り合いを活発化させることが示唆された。

#### 4. 研究の成果

「CROSS OPINION」を用いた語り合い活動を取り入れた授業は、受容的・肯定的な雰囲気、多くの相互作用がある発展的な対話的学びとなっていた。また、教師の介入の重要性も示唆された。

#### 5. 引用・参考文献

- 財団法人日本児童教育振興財団内日本性教育協会(2011)「若者の性」白書第7回青少年の性行動全国調査報告. 小学館 他